

## 「市政懇談会」における市行政に対する要望等の回答(市長より)

市政懇談会でいただいた意見で、市行政へ要望した項目について、市長より回答を得ましたので、ご報告いたします。

No.	開催場所	いただいたご意見	市長からの回答
1		大潟村だけが人口増加していくのは、所得水準が高いことだけが理由でないような気がする。大潟村が人口増加する理由をしっかりと調査することが今後の施策に役立つと思われるので調査すべきと思う。	市では現在、定住移住の促進に関する庁内検討会議を立ち上げ、人口減少に関する検討を行っています。大仙市の状況に加えて、大潟村の状況についても調査・分析を行い、今後の施策の参考にしたいと思います。
2	南	人口減少が進むと国保の負担が大きくなり大変であるが、その対応を考えているのか。また、医療費の削減には予防が大切と思う。予防医療に力を入れていくべきと思う。	市では、「国民健康保険事業運営安定化計画」を策定し、医療費の適正化と健康づくりの推進に努めており、今後も各種がん検診や特定健康診査を受けやすい体制を整え、予防医療の取り組みを強化してまいります。また、市町村国保の運営が厳しい状況にある中、本市等の提案により県内全市町村で組織する「秋田県国民健康保険事業広域化研究会」が設立され、県単位での広域化の早期実現に向けて検討が始まっております。
3	外	収入と人口増は大いに関係があると思う。南外は高齢者が多く年金収入が頼りである。自立することは大切であるが、起業するための補助金があるにしても自己資金が問題でなかなかできない。何か高齢者向けの収入源のアイデアはないか。	長年培ってこられた知識や技術を行かして働く手段としては、シルバー人材センターへの登録があります。また、起業については、新製品の開発等を支援する各種制度を活用しながら、地域の方々などと一緒に起業することで、負担を分け合うという方法もあります。
4		市の各種審議会等の委員を見ると高齢者が多い様な気がする。若い人をもっと入れるべきと思う。	市の審議会等の委員には、それぞれの設置目的に応じた年齢層の方を委嘱していますが、若い方からも様々な形で広くご意見等をいただき、市の施策に反映させていきたいと思っています。
5		JAのあり方について この地域には米の研究会がいくつかあり、それぞれ活動をしているが、JAとしては米の研究や販売戦略が遅れているのではないのか。秋田は生産そのものよりも販売に対する政策、統一されたものがないように感じる。行政として指導や助言、県への働きかけなどの計画は考えているか。	全国的に米の需要が低迷し、低価格競争が激化する状況下では、米の販売戦略をより強化するとともに、米に依存した農業構造から脱却する必要があると考えていますが、その取り組みにあたっては、県やJAを始め、関係団体と協議の場を設けて、十分連携を図っていききたいと思います。
6	サンクエスト大曲	『大曲の花火』の火薬が屋根に落ちてトタンがサビやすくなっている。	先般、損害保険鑑定士等が行った鑑定により、花火の燃えかすによる周辺への影響はないとの結果を得ていますが、大曲の花火の開催にあたっては、近隣住民の皆様のご理解・ご協力が不可欠ですので、今後もご要望等があればできる限り対応したいと思います。
7	サンクエスト大曲	誘致企業対策について、自分はいい話をしているつもりであるが、大仙市からは全く返事がない。大仙市は本気で取り組んでいるのか。	市では、地域の雇用を担う地元企業に対する支援を行うとともに、新たな雇用の創出のための新規企業誘致に向けて、あらゆるきっかけや情報を基に対策に取り組んでおります。今後とも市民並びに企業関係者とのネットワークを大切にしながら活動を進めて参ります。
8		県内の平均寿命が他県に比べ短い。また、健康診断の受診率も低いのが対策はどのようになっているか。	市では、がん検診の申込者のうち未受診の方へ電話での受診を勧奨する「コール・リコール推進事業」を実施しているほか、子宮頸がん検診等を市内の医療機関で受診できるようにし、また日曜検診や追加検診を実施するなど、受診率の向上に努めています。また、平成23年度からは市独自の新たな検診方法として大腸がん検診研究事業に取り組んでおり、県内でも上位の受診率になるなど、がん死亡率の減少に努めております。
9	サンクエスト大曲	園芸メガ団地のような取り組みを、各地域でできないものか。	園芸メガ団地整備事業は、その規模の大きさから短期間で整備を完了させることができず、現在も県内7カ所で整備を終えていない段階です。このため、現時点では他の地域での新たな採択は難しいですが、この事業以外にも、国や県・市で生産施設の整備や農業機械の購入を支援する制度がありますので、そちらもぜひご検討ください。
10	サンクエスト大曲	1) 男性の寿命が短い。何か対策が必要ではないか。 2) 認知症の対応について、現在の予算で間に合うか。また、床数が足りないのではないか。	市では、死亡原因のうち大きな割合を占める生活習慣病の早期発見のため、特定健康診査等を受けやすくする等の取組みを行っています。また、国の認知症施策推進5ヶ年計画(オレンジプラン)に基づき、認知症の予防・啓発や、認知症の方のご家族を支える事業等を行っているほか、認知症のケアを提供する介護保険施設などの整備を計画的に進めることとしています。
11		大曲厚生医療センターの職員(看護師)の対応、言葉使いが良くない。市も深く関わっているので、働きかけてほしい。	市と大曲厚生医療センターでは、「大仙市医療・行政連携連絡会」を設置し、市民の方からの意見や要望等を踏まえた地域医療の課題等について意見交換を行っていますので、接遇向上に向けた改善を求めたいと思っています。

No.	開催場所	いただいたご意見	市長からの回答
12	公内小 民館友	病院は整備されたが、優秀な医師を配属するよう働きかける必要があるのではないか。	医師の確保については、大曲厚生医療センターのみならず全県的な課題であります。県では、資金貸与や医師臨床研修制度、女性医師の支援制度を設けるなどの取り組みを行っていますが、市としても、これまで以上に関係機関との連携を密にして、医師の確保を支援していきたいと思えます。大曲厚生医療センターにおいては、秋田大学等との連携強化を図るなど、医師の充足や診療体制の充実に取り組んでいると伺っております。
13		大仙市の税金は県内の市と比較して高いか。比較した分かり易い資料を公表して欲しい。	市の税率や手続き等については市のホームページ上でお知らせしていますが、他の自治体と比較を行った資料はありませんので、今後、公表を検討したいと思います。
14	角間川 公民館	3. 11の震災後、災害発生時の市の広報のあり方について検討されたか。給水場所についても検討したか、知らせてほしい。	東日本大震災の教訓を受け、市では、災害時の緊急速報メールの配信を開始したほか、人工衛星を用いて国から直接情報を送信するJアラートの導入に向けた準備を行っています。また、給水車による給水は、水道施設の復旧に時間がかかる場合に行いますが、その実施場所は、市内の被害状況を考慮した上で、市役所支所や学校の校庭のように、人が並ぶことのできる広さや、駐車場が一定程度確保できること、公共施設等のわかりやすい場所であること等の条件に合った場所を選択することとしています。
15		冬のスポーツ施設の整備を要望する。スケート場などを整備し、まちの活性化を図ってほしい。	市では現在、冬季スポーツの推進のため、小・中学生に市内スキー場リフト共通シーズン券を無料配布し、スキー人口の増加と地域経済の活性化を図っていますが、今後も様々なご意見をいただきながら、冬季スポーツの環境整備を検討していきたいと思えます。なお、現在大曲西道路の橋脚下を利用し、年間を通して利用できる多目的広場の整備を県が進めており、今年度中に工事が完了し来年度から利用可能になると伺っております。
16	公角 民間 館川	角間川地区に久しぶりに農業後継者が誕生した。この後も支援を願いたい。	将来の地域農業を担う新規就農者の育成や確保は重要な課題ですので、今後も引き続き、県やJAなどの関係機関との協力の下、栽培技術や経営の指導などの様々な支援を行っていききたいと思えます。
17	神	福島、宮田地区の基盤整備事業(約60ha)は採択が5年先と言われている。一刻も早く整備されるよう要望する。	現在、事業主体である県への要望を行っているところですが、全県的に要望が集中しており、採択までは至っていませんので、今後も引き続き、早期採択に向けて県に要望していきたいと思えます。
18	岡	県の政策に対応できるような基盤整備計画をされるようにしていただきたい。	県営ほ場整備事業については、現在市内の12地区で事業を実施しており、今後はさらに、神岡地域の福島・宮田地区を含めて12地区で実施を予定しています。引き続き、地域のご要望やご意見等をふまえ、県の政策に対応しながら、順次計画的に進めていきたいと思えます。
19		旧町村の道路整備に力を入れてほしい。圃場整備事業で幹線道路用地として創設した用地がいまだに整備されないで、管理が大変になっている。いつまで地域で管理すればよいのか。整備の方向付けをしてほしい。	ほ場整備事業で創設された中仙地域の2箇所の用地は、現在策定中の次期総合計画の中で利用方法を検討していきますが、当面の管理については、地域の環境保全推進のために実施される「多面的機能支払交付金事業」により、各地域の皆様と十分協議し実施していきたいと思えます。
20		税の申告会場について、休日に行ったところ、待合室に暖房がなく大変寒い思いをした。対策を検討してほしい。	申告会場の中仙支所は、庁舎全体の暖房設備を備えています。故障のため十分な暖房を設置できず、大変申し訳ありませんでした。次回からは暖房設備の整った場所でお待ちいただけるよう準備しますので、今後ともご協力くださるようお願いいたします。
21	中 仙	自主防災組織を行政の指導により作ったが、どのような活動をすればよいのかが良くわからない。指導を強化してほしい。	大規模な災害が発生した場合、行政による対応だけでは限界があり、すべての地域で早期に実効性のある対策を採るのが難しい場合もあります。自主防災組織は、そのような場合に備え、自分たちの地域は自分たちで守るという自覚や連帯感に基づき、日頃からの防災活動や災害時の避難誘導等の活動を行っていただくために結成される組織です。市では、防災出前講座や研修会等の活動支援を行っていますので、これらをご活用いただきながら、それぞれの地域の実情に合った活動をお願いしたいと思います。
22		地域のあるべき姿をみんなで作るべきと思う。地域の発展計画を創るべきと思う。	市では、合併からこれまでの取り組みを総括するとともに、地域の目指す方向とそれを実現する具体的な取り組みを、次期総合計画に定めることとしております。また、各地域の10年先を見据えた新たな地域振興計画を次期総合計画の中に「地域編」として取り入れることとし、現在各地域協議会において協議が進められております。これらの計画については、市民の皆様からいただいたご意見を十分反映し、地域のあるべき姿を地域全体で考えていきたいと思えます。

No.	開催場所	いただいたご意見	市長からの回答
23		農協によるメガ団地事業が進んでいるが、地域活性化のために上手くいってほしい。そのためには実際に運営する会社《法人》の経営指導を市としてもしっかりやってほしい。	中仙地域の園芸メガ団地整備事業は、県、JA、市が連携して、栽培技術の習得に対する支援を実施しているほか、試験栽培の費用を助成して、本格栽培に向けた準備を進めています。計画どおりに経営が軌道に乗り、安定した収穫量と品質が確保できるよう、県やJAと連携を密にしながら、指導と支援を継続していきたいと思います。
24	中	八乙女野球場スタンドのサビとカビがすごい。市外からの来場者も驚いている。速急に補修してほしい。	市内の他の球場も同じような状況となってきたことから、ベンチの破損など危険と思われる箇所を優先的に補修していますが、今後は順次、付着した汚れや塗装剥離も含めて、環境整備に努めていきます。
25	仙	通学路のライン引きについて、2年前からお願いしているが、まだ検討中か知らせてほしい。	新山囲ノ内線は、当初は側溝改良工事が予定されていたことから、その完成後に外側線を設置することとしていましたが、実施まで至っていませんでした。代替手段として、平成27年度中にグリーンベルトを設置することで、児童や生徒の安全を確保したいと思います。
26		坂の上橋を車が通るたびに、すごい音がする。直してほしい。	坂の上橋は、早急に補修が必要な橋りょうの一つとして、現在設計を進めている段階で、平成27年度には補修工事を実施したいと考えています。なお、補修工事を実施するまでの間は、引き続き舗装などの応急措置を行います。
27		中国からのPM2.5について、どうい対策を考えているのか。	中国の大気汚染が深刻化していることを受け、県では大気中の微少粒子状物質（PM2.5）の観測を強化しており、市でも、県の測定結果に基づき、必要に応じてマスクの着用や不要な外出の自粛などを呼びかけることとしています。
28	西 仙 北	畑などの耕作放棄地について、市のネットワークで市民に提供するというようなことは考えていないのか。	農業委員会では、耕作放棄地などの遊休農地の調査を行っており、市としても、その有効活用を図っていくことが重要だと考えていますので、所有者の方の承諾を得られたものについては、市のホームページ等での公開を検討したいと思います。
29		企業誘致活動を行う際に管内の企業関係者（商工会や農協）を同行させたらどうか。	市では、地元企業への支援策や新規企業進出の情報を得た際には、必要に応じて、商工団体や農協等と連絡を取り合いながら活動しています。地域における雇用の場を創出することは、定住を促進する上でも特に重要ですので、今後も関係団体との連携を密にして活動していきたいと思います。
30	太 田	小さい子ども達を守らなければならない、一人で歩いていると、非常に危険、どう守っていくか考えてほしい。	市では、定期的な危険箇所の調査や防犯パトロールのほか、見守り隊による学校周辺での声かけなどを行っています。今後も警察を始め、ご家庭や地域の皆様のご協力をいただきながら、地域全体で子どもたちの安全を守っていききたいと思います。
31		空き家を、ふるさとへ帰ってきた人の滞在場所にできないか。	空き家は個人の財産ですので、市の所有物として、帰省された方への一時的な滞在場所として提供するためには、多額の管理費用等が生じることになります。このような点を踏まえ、定住促進に関する施策の一環として、慎重に検討したいと思います。
32	太	移動販売車が減っている。年間いくらでもいいから、補助していただけないか。	平成26年度から、南外地域外小友地区を対象に、毎週火曜日と土曜日に移動販売車を委託運行しています。今後はこの効果を検証し、他の地域への展開も検討していきたいと思います。
33	田	地域スポーツクラブの助成金が少なくなった。財政面で厳しくなったので、支援をお願いしたい。	地域スポーツクラブについては、日本スポーツ振興センター（スポーツ振興くじ助成）のクラブ運営費助成の減額により財政面への影響が出てきております。心身ともに健康で活力のある生活を送るため、スポーツ振興は大変重要ですので、スポーツクラブの自立に向けた財政的な支援や、地域スポーツ施設の維持管理の将来的な指定管理委託、また、活動拠点となる地域公共スポーツ施設の整備など、様々な形での支援を検討していきたいと思います。